



Barrientos 島 (エイチオー諸島)

南緯62度24分 西経59度47分 -

Robert 島とGreenich島の間のEnglish海峡の北の入り口

主な特徴

- ゼンツーペンギンとヒゲペンギン
- ミナミゾウアザラシ
- 地形的特徴
- オオフルマカモメ
- 植生



概要

地形

この全長1.5kmの島の北岸は、高度約70mに達する険しい断崖がそびえ、南岸へ向けて緩やかな傾斜を描いている。島の西端と東端は黒砂と玉石の海岸である。西端の特徴として柱状の玄武岩の露出が見られる。

動物相

繁殖が確認されている種：ゼンツーペンギン (*Pygoscelis papua*)、ヒゲペンギン (*Pygoscelis antarctica*)、オオフルマカモメ (*Macronectes giganteus*)、ミナミオオセグロカモメ (*Larus dominicanus*)、ナンキョクオオトウゾクカモメ (*Catharacta spp.*)。未確認 (suspected) 繁殖種：ズグルムナジロヒメウ (*Phalacrocorax atriceps*) と アシナガウミツバメ (*Oceanites oceanicus*)。定期的上陸：ウェッデルアザラシ (*Leptonychotes weddelli*)、ミナミゾウアザラシ (*Mirounga leonina*)、12月下旬以降ナンキョクオットセイ (*Arctocephalus gazelle*)。

植生

島の中央全体が非常に広範囲な苔で覆われている。地衣類のオオロウソクゴケ種 (*Xanthoria spp.*)、ダイダイゴケ種 (*Caloplaca spp.*) やその他の固着性地衣類が生息している。緑藻類のナンキョクカワノリ (*Prasiola crispa*) は広範囲に見られる。

訪問者の影響

既知の影響

複数の歩道による島の東端から西端の間の植生の浸食。

潜在的影響

植生へのさらなる損傷と野生生物、とりわけオオフルマカモメへの攪乱。

上陸要件

船舶*

乗客200名以下の船舶。1度に1隻の船舶に限る。1日あたり (午前0時から翌午前0時まで) 最大で2隻。

訪問者

探検ガイドとリーダーを除き、常に下船は1度に100名以内。訪問者20名あたりガイド1名。所定の宿泊滞在関係者を例外として、22時から4時 (現地時間) の間は上陸できない。これは野生生物の休息時間確保のためである。

訪問者用地区

上陸地区

第1候補：島の東端。北部の砂浜、あるいは南部の礫浜。

第2候補：島西端の北岸。高潮時のアクセスが最も容易である。

閉鎖区域

閉鎖区域A：東部上陸区域の上方と南東方向にある、ヒゲペンギン監視サイト。

閉鎖区域B：非常に広範囲な苔で覆われた (指定徒歩経路を除く) 島中央部と、オオフルマカモメが営巣する北部の断崖。

閉鎖区域C：島の南西端の円丘で、オオフルマカモメの営巣地。

ガイド付き徒歩地区

指定経路がはっきり識別できる場合、閉鎖区域Bのみ歩行可能である。指定経路は東端の海岸線沿いの岩場の上から、植生を横切る細い砂利の河床沿いである。この経路は、ガイドの目の行き届いた10名以内の団体にのみ利用されるべきである。河床沿いの歩行は1度に1組とし、その際植生の縁を踏まないよう細心の注意を払うこと。

自由散策地区

訪問者はどこでも自由散策が許されているが、監視下に限られる。また閉鎖区域とガイド付き歩行区域は除く。

*：ここでいう船舶とは、12人以上の乗客を運搬する船に限る。



Barrientos 島 (エイチオー諸島)

南緯62度24分 西経59度47分 - Robert 島とGreenich島の間のEnglish海峡の北の入り口

訪問者の行動規範

上陸後の行動

ゆっくりと注意深く歩行すること。野生生物からは5m以上の距離を保つようにし、動物に道を譲ること。動物に挙動の変化が見られたら、距離を置くこと。営巣中のオオフルマカモメと同じ高さ、あるいはさらに高い位置にいる場合、最低50mの安全距離を取るべきである。鳥の挙動に変化が見られたら、距離を置くこと。ナンキョクオットセイは攻撃的になる事があるので、近づかないこと。植生の上を歩かないこと。

注意事項

断崖や垂直壁、岩柱に接近しないこと。落石や滑落の恐れがある。



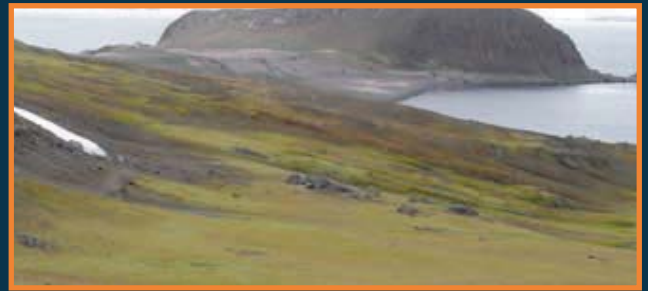
Barrientos島西部上陸区域



Barrientos島東部上陸区域



ルートが認識できる場合は閉鎖地区Bのみを歩くこと



Barrientos島の中央部は濃密な苔におおわれている

Barrientos 島

